

※下記の下線字ページを記入し、下線なしのフォントに変換後出力してください。
この行は最終的に削除してください。

耐震改修報告書目次

§ 1	建築物及び耐震改修診断結果概要	
1-1	建築物及び構造概要(診断)	<u>P1</u>
1-2	耐震診断概要	<u>P1</u>
1-3	耐震診断結果	<u>P1</u>
1-4	耐震改修建築物及び構造概要(改修)	<u>P1</u>
1-5	耐震改修概要	<u>P1</u>
1-6	耐震改修結果	<u>P1</u>
1-7	配置図(診断)	<u>P1</u>
1-8	診断平面図・立面図・構造図	<u>P1</u>
1-9	改修平面図・立面図・構造図	<u>P1</u>
1-10	外観写真(診断)	<u>P1</u>
§ 2	現地調査(診断)	<u>P1</u>
§ 3	耐震診断方針(診断)	<u>P1</u>
§ 4	耐震診断計算(診断)	<u>P1</u>
§ 5	耐震診断添付資料(診断)	<u>P1</u>
§ 6	改修現地調査	
6-1	改修調査概要	<u>P1</u>
6-2	改修調査結果	<u>P1</u>
6-2-1	改修図面との照合	<u>P1</u>
6-2-2	改修建物被災履歴	<u>P1</u>
6-2-3	改修コンクリートのひび割れ	<u>P1</u>
6-2-4	改修コンクリートの強度	<u>P1</u>
6-2-5	改修コンクリートの中性化	<u>P1</u>
6-2-6	改修付表等(調査結果一覧表)	<u>P1</u>
6-3	鉄骨部の実態調査	<u>P1</u>
6-3-1	改修調査概要	<u>P1</u>
6-3-2	改修調査結果	<u>P1</u>
6-3-2	改修実態調査図	<u>P1</u>
§ 7	耐震改修方針	
7-1	耐震改修内容	<u>P1</u>
7-2	耐震改修基準等	<u>P1</u>
7-3	改修使用電算プログラム	<u>P1</u>
7-4	改修使用材料及び強度	<u>P1</u>
§ 8	耐震改修計算	
8-1	改修形状指標 (Fes)	<u>P1</u>
8-2	改修CT-F図	<u>P1</u>
§ 9	耐震改修添付資料	
9-1	耐震改修詳細検討資料	<u>P1</u>

§ 1 建築物及び耐震診断結果概要

1-1 建築物概要及び構造概要

(診断：〇〇評価委員会の評価番号〇〇〇より)

発注者		〇〇〇		
耐震診断	診断者	〇〇〇		※報告書は発注者の承認を得ていることなどを記述する。
	診断者住所	〇〇〇		
	診断年	平成00年00月		
	診断評価番号	HA0 34-00-0000		
診断建物名称		〇〇〇		
診断建物所在地		〇〇〇		
診断建物設計者		〇〇〇		
診断建物施工者		〇〇〇		
診断建物規模		地上 〇 階 地下 〇 階 塔屋 〇 階		建築物の特徴 ※下記の項目などを記述する。 ・建築物の軸線
診断建物竣工年		昭和00年 (経過年数)		・増築・改修の有無
主要用途		〇〇〇		・増築・改修の時期
主要仕上		外壁 〇〇〇 屋根 〇〇〇 間仕切 〇〇〇		・外壁、屋根、間仕切りの仕上げを記載
建築物概要*耐震診断	建物形状	平面形	〇〇〇	・床面積の内訳
		立面形	〇〇〇	
	建物面積	建築面積	〇 m ²	
		延べ面積	〇 m ²	
		〇 階	〇 m ²	
	建物高さ	軒高さ	〇 m	
		〇 階	〇 m	
	建物長さ	X方向	〇 m	
		Y方向	〇 m	
	隣接建物 避難階段等		〇〇〇	

(診断：評価番号〇〇〇より)

構造概要＊耐震診断	構造種別		<u>〇〇〇</u>		構造の特徴	
	架構形式	X方向	<u>〇〇〇</u>		※下記の項目などを記述する。 ・架構形式	
		Y方向	<u>〇〇〇</u>			
	スパン数	X方向	<u>0</u>	スパン		
		Y方向	<u>0</u>	スパン		
	スパン長	X方向	<u>0</u>	m(代表スパン)		
		Y方向	<u>0</u>	m(代表スパン)		
	柱の断面種別		<u>H形鋼</u>		・断面種別、日の字柱等を記載	
	柱脚形式		<u>露出柱脚</u>		・露出、根巻き、埋込等の形式を記載	
	接合・継手形式		<u>柱-柱接合(溶接接合、ボルト接合)</u>			
			<u>柱-梁接合(溶接接合)</u>			
			<u>梁-梁接合(高力ボルト接合)</u>			
	筋かいの有無及び断面種別		<u>筋かい有、連層有(山形鋼)</u>		・筋かいの有無(連層の有無)、断面種別	
	屋根架構		<u>筋かい、大スパン架構</u>		・筋かい、トラス架構、大スパン架構等	
	床架構		<u>RCスラブ(接合筋有)</u>		・筋かい、合成床、RCスラブ等	
持出し部材	X方向	<u>〇〇〇</u>				
	Y方向	<u>〇〇〇</u>				
層重量	<u>0</u> 階	<u>0</u>	kN			
単位重量	<u>0</u> 階	<u>0</u>	kN/m ²			
基礎地盤	基礎形式		<u>〇〇〇</u>			
	長期支持力		<u>〇〇〇</u>			
	支持層		<u>〇〇〇</u>			
	支持深さ		<u>〇〇〇</u>			
	地盤種別		<u>〇〇〇</u>			
	敷地状況		<u>〇〇〇</u>			
その他		<u>〇〇〇</u>		・その他重要事項		

(診断：評価番号〇〇〇より)

使用材料・強度*耐震診断	既存コンクリート	強度	設計基準強度	<u>0</u>	N/mm ²	材料の特徴 ※下記の項目などを記述する。 <hr/> ・コンクリート強度、中性化の内訳 <hr/> ・JIS規格品 1.1倍割増降伏点強度 <hr/> ・JIS規格品 1.1倍割増降伏点強度 <hr/> ・引張強度 <hr/> ・その他重要事項 <hr/>		
			推定強度		診断強度			
		基礎		<u>0</u>	N/mm ²		<u>0</u>	N/mm ²
		中性化	基準値	<u>0</u>	mm			
		測定値の最大値	<u>0</u>	mm				
		中性化深さ	<u>0</u>	mm				
	既存鉄筋	主筋	材質				降伏点強度	
			SR24		<u>258</u>		N/mm ²	
		あばら筋	SR24		<u>258</u>		N/mm ²	
		その他	SR24		<u>258</u>		N/mm ²	
既存鉄骨	柱 梁 筋かい	材質			降伏点強度			
		SS41		<u>258</u>	N/mm ²			
		SS41		<u>258</u>	N/mm ²			
	筋かい	SS41		<u>258</u>	N/mm ²			
	アンカーボルト	材質			引張強度			
	接合ボルト	SS41		<u>400</u>	N/mm ²			
		HTB F10T		<u>1000</u>	N/mm ²			
その他		<u>〇〇〇</u>						

1-2 耐震診断概要

(診断：評価番号〇〇〇より)

現地調査＊耐震診断	設計図書の有無	<u>有</u>	特記事項	
	被災履歴	<u>有（平成13年芸予地震）</u>	・調査方法、箇所について発注者と協議	
	図書の照合	<u>不整合箇所有り</u> <u>（ブレース位置が設計図書と不整合）</u>	・CAD化した図面の発注者の承認 ・既存図の添付（矩計、断面詳細、	
	部材	柱	<u>調査有（目視、寸法測定）</u>	<u>鉄骨詳細図等）</u>
		梁	<u>調査有（目視、寸法測定）</u>	<u>既存図の添付は参考でも可</u>
		筋かい	<u>調査有（目視、寸法測定）</u>	・調査結果は実態調査用紙に記入する
	接合部	ボルト接合	<u>調査有（高力ボルト：目視）</u>	
		隅肉溶接	<u>調査有（目視、寸法測定）</u>	・隅肉サイズ、のど厚、長さの調査は必須
		ダイアフラム	<u>調査有（目視、寸法測定、超音波探傷）</u>	・突合せ部の超音波探傷試験は必須
	柱脚	<u>調査有（目視、寸法測定、超音波探傷）</u>		
	部材の傾斜、座屈	<u>調査有（目視）</u>		
	鉄骨さび、腐食	<u>調査有（目視）</u>		
	基礎状況	<u>調査無</u>		
	ひび割れ劣化	<u>調査有（目視）</u>		
	不同沈下	<u>調査有（目視）</u>		
コンクリートブロック	<u>無</u>			
非構造部材	<u>評価対象外（別途検討）</u>	・非構造部材の取り扱い		
その他	<u>〇〇〇</u>			

(診断：評価番号〇〇〇より)

モデル化および計算手法*耐震診断	保有水平耐力	節点振分け法	<u>有 (接合部破断は無し)</u>	特記事項
		仮想仕事法	無	※下記の項目などを記述する。
		荷重増分法	無	・保有水平耐力算定の採用の有無
		弾性解析	無	・接合部破断の有無
	解析用外力分布	<u>Ai分布</u>		
	全体・ゾーニング	<u>ゾーニング</u>	・水平剛性の評価 (建物全体又はゾーニング)	
	部材の耐力評価	<u>設計図書とおりで耐力を評価</u>	・実態調査結果の反映方法	
	接合部の耐力評価	<u>突合せ溶接部に欠陥有り、接合部耐力を低減</u>	・接合部調査、超音波探傷結果の反映方法	
	大スパン架構	<u>大スパン架構有、鉛直震動の検討有</u>	・大スパン架構の有無、鉛直震動の検討等	
	水平面の荷重伝達	<u>略算法</u>	・略算法又は精算法	

1-3 耐震診断結果

(診断：評価番号〇〇〇より)

耐震診断基準	※診断基準は、採用した主たる基準を記述し、準拠した基準も列記する。			
耐震診断次数	精密診断		※発注者と協議を記述する。	
耐震診断諸数値	地域係数：Z = <u>0.9</u>		※発注者と協議を記述する。	
	用途係数：U = <u>1.0</u>		・地盤指標を採用する場合はGの値を記載	
	地盤指標：G = <u>1.0</u>			
振動特性係数：R _t = <u>1.0</u>				
	剛性率・偏心率の係数：F _{es} = <u>1.00</u>			
	層のDs値：S _T = <u>0.25</u>			
	鉄骨造：I _s = E _o / (F _{es} · Z · R _t · U · G)			
	鉄骨造：E _o = Q _u · F / (ΣW _i · A _i)			
	鉄骨造：q = Q _u / (S _T · F _{es} · ΣW _i · Z · R _t · A _i · U · G)			
耐震診断判定指標	I _{so} = <u>0</u>		q ≥ <u>0</u>	
耐震診断結果	X方向		考察	
	階	I _s 値	q値	判定
	1階	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>〇〇〇</u>
	Y方向		考察	
	階	I _s 値	q値	判定
	1階	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>〇〇〇</u>
	特記事項			
	※下記の項目などを記述する。			
	・鉄骨接合部			
	・地盤			
・コンクリートブロック、特定天井、非構造部材				
・エキスパンションジョイント				
・隣接建物				
・大スパン				
・持出し梁				
・詳細な調査の必要性				
・改修の必要性				
・補修の必要性				
・その他重要事項				

X方向										
	階	ΣW (kN)	Ai	Qu (kN)	Fi	Eo	Fes	I s	q	破壊形式
→	正 加 力									
	1階	0	0.00	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	〇〇,〇〇
←	負 加 力									
	1階	0	0.00	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	〇〇,〇〇
Y方向										
	階	ΣW (kN)	Ai	Qu (kN)	Fi	Eo	Fes	I s	q	破壊形式
→	正 加 力									
	1階	0	0.00	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	〇〇,〇〇
←	負 加 力									
	1階	0	0.00	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	〇〇,〇〇
									U=	0
									R _T =	0
									G=	0
									Z=	0
特記事項										
※決定した方向などを記述する。										
※その他重要事項										
判定基準は以下とする										
(1) Isが0.3未満またqが1.0未満・・・地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性が高い。										
(2) (1)、(3)以外・・・地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性がある。										
(3) IsがIso以上かつqが目標値以上・・・地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性が低い。										

発注者		<u>〇〇〇</u>		
耐震改修	改修診断者	<u>〇〇〇</u>		※診断評価取得状況などを記述する。 ※改修報告書は発注者の承認を得ていることなどを記述する。
	改修診断者住所	<u>〇〇〇</u>		
	改修診断年	<u>平成00年00月</u>		
	改修評価番号	<u>HA0 34-00-0000</u>		
診断建物名称		<u>〇〇〇</u>		
診断建物所在地		<u>〇〇〇</u>		
診断建物設計者		<u>〇〇〇</u>		
診断建物施工者		<u>〇〇〇</u>		
診断建物規模		地上 <u>0</u> 階 地下 <u>0</u> 階 塔屋 <u>0</u> 階		建築物の特徴 ※診断評価取得後の経緯など記述する。 ※診断評価取得後の隣接建物の状況など記述する。
診断建物竣工年		<u>昭和00年</u>		
主要用途		<u>〇〇〇</u>		※その他重要事項
主要仕上		外壁 <u>〇〇〇</u> 屋根 <u>〇〇〇</u> 間仕切 <u>〇〇〇</u>		
建物形状	平面形	<u>〇〇〇</u>		
	立面形	<u>〇〇〇</u>		
建物面積	建築面積	<u>0</u>	m ²	
	延べ面積	<u>0</u>	m ²	
	<u>0</u> 階	<u>0</u>	m ²	
建物高さ	軒高さ	<u>0</u>	m	
	<u>0</u> 階	<u>0</u>	m	
建物長さ	X方向	<u>0</u>	m	
	Y方向	<u>0</u>	m	
隣接建物		<u>〇〇〇</u>		

建築物概要
*耐震改修

構造概要 *耐震改修	構造種別		<u>〇〇〇</u>		構造の特徴
	架構形式	X方向	<u>〇〇〇</u>		※診断評価取得後の変更など記述する。 ※発注者との協議事項など記述する。
		Y方向	<u>〇〇〇</u>		
	スパン数	X方向	<u>0</u>	スパン	※診断評価取得後の隣接建物の状況など記述する。
		Y方向	<u>0</u>	スパン	
	スパン長	X方向	<u>0</u>	m(代表スパン)	※改修箇所、方法などを記述する。 ※その他重要事項
		Y方向	<u>0</u>	m(代表スパン)	
	柱の断面種別		<u>H形鋼</u>		
	柱脚形式		<u>露出柱脚</u>		
	接合・継手形式		<u>柱-柱接合(溶接接合、ボルト接合)</u>		
			<u>柱-梁接合(溶接接合)</u>		
			<u>梁-梁接合(高力ボルト接合)</u>		
	筋かいの有無及び断面種別		<u>筋かい有、連層有(山形鋼)</u>		
	屋根架構		<u>筋かい、大スパン架構</u>		
	床架構		<u>RCスラブ(接合筋有)</u>		
	持出し部材	X方向	<u>〇〇〇</u>		
		Y方向	<u>〇〇〇</u>		
	層重量	<u>0</u> 階	<u>0</u>	kN	
	単位重量	<u>0</u> 階	<u>0</u>	kN/m ²	
	基礎地盤	基礎形式		<u>〇〇〇</u>	
長期支持力		<u>〇〇〇</u>			
支持層		<u>〇〇〇</u>			
支持深さ		<u>〇〇〇</u>			
地盤種別		<u>〇〇〇</u>			
敷地状況		<u>〇〇〇</u>			
改修箇所及び方法		<u>〇〇〇</u>			

使用材料・強度*耐震改修	既存コンクリート	強度	設計基準強度	<u>0</u> N/mm ²	材料の特徴 ※診断評価取得後の変更など記述する。 ※その他重要事項
			推定強度	診断強度	
		基礎	<u>0</u> N/mm ²	<u>0</u> N/mm ²	
		中性化	基準値	<u>0</u> mm	
			測定値の最大値	<u>0</u> mm	
			中性化深さ	<u>0</u> mm	
	既存鉄筋	主筋 あばら筋 その他	材質	降伏点強度	
			SR24	<u>258</u> N/mm ²	
			SR24	<u>258</u> N/mm ²	
			SR24	<u>258</u> N/mm ²	
	既存鉄骨	柱 梁 筋かい	材質	降伏点強度	
			SS41	<u>258</u> N/mm ²	
			SS41	<u>258</u> N/mm ²	
		アンカーボルト 接合ボルト	材質	引張強度	
			SS41 HTB F10T	<u>400</u> N/mm ² <u>1000</u> N/mm ²	
改修コンクリート	<u>000</u>	設計基準強度	<u>0</u> N/mm ²		
改修鉄筋	主筋 その他	材質	降伏点強度	・ JIS規格品 降伏点強度	
		SD345 SD295A	<u>345</u> N/mm ² <u>295</u> N/mm ²		
改修鉄骨	鉄骨	材質	降伏点強度	・ JIS規格品 降伏点強度	
		SS400	<u>258</u> N/mm ²		
	ボルト	材質	引張強度	・ JIS規格品 引張強度	
S10T	<u>1000</u> N/mm ²				
000	000	<u>000</u>	<u>0</u> N/mm ²		
	000	<u>000</u>	<u>0</u> N/mm ²		
その他		<u>000</u>			

	設計図書の有無	<u>有</u>	特記事項	
	被災履歴	<u>有（平成13年芸予地震）</u>	<u>※発注者との協議事項など記述する。</u>	
	図書の照合	<u>不整合箇所有り</u> <u>（ブレース位置が設計図書と不整合）</u>	<u>※診断評価取得後の追加調査などを記述する。</u>	
追加現地調査*耐震改修	部材	柱	<u>調査有（目視、寸法測定）</u>	<u>※その他重要事項</u>
		梁	<u>調査有（目視、寸法測定）</u>	
		筋かい	<u>調査有（目視、寸法測定）</u>	
	接合部	ボルト接合	<u>調査有（高力ボルト：目視）</u>	<u>※改修時の柱脚調査は必須</u>
		隅肉溶接	<u>調査有（目視、寸法測定）</u>	
		ダイアフラム	<u>調査有（目視、寸法測定、超音波探傷）</u>	
	柱脚	<u>調査有（目視、寸法測定、超音波探傷）</u>		
	部材の傾斜、座屈	<u>調査有（目視）</u>		
	鉄骨さび、腐食	<u>調査有（目視）</u>		
	基礎状況	<u>調査無</u>		
	ひび割れ劣化	<u>調査有（目視）</u>		
	不同沈下	<u>調査有（目視）</u>		
	コンクリートブロック	<u>無</u>		
	非構造部材	<u>評価対象外（別途検討）</u>		
	その他	<u>〇〇〇</u>		

(改修)

保有 水平 耐力	節点振分け法	<u>有 (接合部破断は無し)</u>	特記事項 <u>※診断評価取得後の変更など記述する。</u> <u>※その他重要事項</u>
	仮想仕事法	無	
	荷重増分法	無	
	弾性解析	無	
モデル 化 お よ び 計 算 手 法 * 耐 震 改 修	解析用外力分布	<u>△i分布</u>	
	全体・ゾーニング	<u>ゾーニング</u>	
	部材の耐力評価	<u>設計図書とおりで耐力を評価</u>	
	接合部の耐力評価	<u>突合せ溶接部に欠陥有り、接合部耐力を低減</u>	
	大スパン架構	<u>大スパン架構有、鉛直震動の検討有</u>	
	水平面の荷重伝達	<u>略算法</u>	
	不整形架構	<u>不整形架構有、Fesはゾーン毎</u>	
	支点モデル	<u>弾性バネ</u>	
	使用プログラム	<u>〇〇〇</u>	
	その他		

耐震改修診断基準	※診断基準は、採用した主たる基準を記述し、準拠した基準も列記する。			
耐震診断次数	精密診断		※発注者と協議を記述する。	
	地域係数：Z = <u>0.9</u> 用途係数：U = <u>1.0</u> 地盤指標：G = <u>1.0</u> 振動特性係数：R _t = <u>1.0</u> 剛性率・偏心率の係数：F _{es} = <u>1.00</u> 層のDs値：S _T = <u>0.25</u>		※発注者と協議を記述する。 ・地盤指標を採用する場合はGの値を記載	
	鉄骨造：I _s = E _o / (F _{es} · Z · R _t · U · G) 鉄骨造：E _o = Q _u · F / (ΣW _i · A _i) 鉄骨造：q = Q _u / (S _T · F _{es} · ΣW _i · Z · R _t · A _i · U · G)			
耐震改修判定指標	I _{so} = <u>0</u>		q ≥ <u>0</u>	
	X方向		考察	
	階	I _s 値	q値	判定
	1階	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>○○○</u>
	Y方向		※下記の項目などを記述する。 ・ゾーニング ・判定結果考察	
	階	I _s 値	q値	判定
	1階	<u>0</u>	<u>0</u>	<u>○○○</u>
耐震改修結果	特記事項 ※下記の項目などを記述する。 ・コンクリートブロック、特定天井、非構造部材 ・エキスパンションジョイント ・その他重要事項			

X方向 ※上段は診断結果、下段は改修結果を示す。										
	階	ΣW (kN)	Ai	Qu (kN)	Fi	Eo	Fes	I s	q	破壊形式
→ 正 加 力	1階	0	0.00	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	〇〇,〇〇
		0	0.00	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	〇〇,〇〇
← 負 加 力	1階	0	0.00	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	〇〇,〇〇
		0	0.00	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	〇〇,〇〇
Y方向 ※上段は診断結果、下段は改修結果を示す。										
	階	ΣW (kN)	Ai	Qu (kN)	Fi	Eo	Fes	I s	q	破壊形式
→ 正 加 力	1階	0	0.00	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	〇〇,〇〇
		0	0.00	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	〇〇,〇〇
← 負 加 力	1階	0	0.00	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	〇〇,〇〇
		0	0.00	0	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	〇〇,〇〇
									U=	0
									R _T =	0
									G=	0
									Z=	0
特記事項										
※決定した方向などを記述する。										
※その他重要事項										
判定基準は以下とする										
(1) Isが0.3未満またqが1.0未満・・・地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性が高い。										
(2) (1)、(3)以外・・・・・・・・・・地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性がある。										
(3) IsがIso以上かつqが目標値以上・・・地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、または崩壊する危険性が低い。										